

過去のおきなわへタイムスリップ!?

戦後沖縄は、アメリカによる占領・統治下の時代(アメリカ世)を経て、50年前の1972年5月15日に日本に復帰しました。本島中部の沖縄市には今でも当時の面影を感じさせる街並みや建物が残っています。

下の写真は50年前の復帰の日、コザ市で撮影されたものです。雨の中、傘をさして登校する当時の子供たち、祖国復帰と書かれた横断幕が掲げられ、通りを行きかう外国人の姿などが見えます。

次頁の写真は、復帰よりさらに前のコザの街を撮影したものです。屋根瓦と英語の看板、貸しスクーター、土産品店、レストラン、オープンしたばかりのショッピングセンター、駐車されたアメリカ車。写真を見ていると、タイムスリップしたような感覚を覚えます。



1972年5月15日 センター通り 撮影:石川文洋
復帰の日は一日中雨が降っていた
朝日新聞提供



1972年5月15日 センター通り入口
復帰の日の登校風景 撮影:玉城哲夫
所蔵:沖縄市総務課市史編集担当



1972年5月15日 センター通り
撮影:石川文洋 朝日新聞提供



1972年5月15日
センター通り 撮影:石川文洋
朝日新聞提供

なご
ゆう
かい



NAKAYUKU



く
おきなわ懐かしの風景く



今とは
全然違う
風景だなあ



かつてのゲート通り(現コザゲート通り) 1950年代
空にのびるエントツは製糖工場の跡
所蔵:沖縄市総務課市史編集担当

ライカム入口にオープンした
特免外商百貨店「プラザハウス」 1954年ごろ
所蔵:沖縄市総務課市史編集担当



センター通り1950~60年代 SOUVENIR(土産品店)、
NEW YORK RESTAURANT(レストラン)の看板が見える
所蔵:沖縄市総務課市史編集担当



島袋バス停(現山里バス停) バス停のある諸見大通りは、山里
交差点を中心に商店や映画館、病院が並び、北部と那覇とを
結ぶ交通の要衝として名をはせた 所蔵:沖縄市総務課市史編集担当

沖縄市中央のゲート通り沿いに、終戦から沖縄市誕生までをテーマにした資料展示館があります。戦後、アメリカ文化と融合しながら個性豊かな街として発展してきた沖縄市。その歴史・文化に触れることができます。

展示館では、5/10~9/11の期間、復帰50年特別企画展「アメリカ世からヤマト世へ-世替わり下の沖縄市」を開催中です。是非足を運んでみてはいかがでしょうか。

■ 沖縄市戦後文化資料展示館「ヒストリート」
沖縄市中央2丁目2-1タサトビル
TEL 098-929-2922

